

学位授与方針 [修士(国際学)]

■ 知識・理解

- 専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。

■ 技能

- 研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。

■ 態度

- 修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。

教育課程編成・実施方針

社会システム研究科東アジア専攻では、教育目的を達成するため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し、実施する。

- 教育課程は、「専攻共通科目」「専門基礎科目」「専門科目」「特別研究科目」の4つの科目区分で構成し、コースワークによって体系的に学習し、修了に必要な所定の単位30単位以上修得するものとする。また、幅広く学際的な知見を獲得していくため、所属する専攻以外の「専門基礎科目」及び「専門科目」の授業科目を履修し単位を修得することができる。

□ 専攻共通科目

現代の社会システム全般を対象として取り上げ、多領域的な視点からアプローチしていくことを学ぶための科目であり、コースワークの概論科目として「社会システム総合概論」を1年次1学期に開設する。2単位必修とする。

□ 専門基礎科目

各専攻分野に関する基礎的な専門知識や能力を習得させるための科目区分である。「東アジア」「国際学」の2つの分野の科目群を配置している。1年次1学期から履修し、所属する専攻の科目群から6単位以上修得する。

<東アジア科目群>

東アジアと東南アジアのありようを体系的に理解し、この地域が抱える諸問題を通時的・共時的な観点から議論するため、必要な知識と高い技能を獲得するとともに、これらを用いて専門分野における分析能力を養成していく科目群である。専門基礎科目として、中国・東北アジア・東南アジアに関する概論を配置している。

<国際学科目群>

今日の世界の成り立ちを幅広い観点から議論し、国際社会に積極的に関わってゆく態度を育成するため、必要な知識と高い技能を獲得するとともに、これらを用いて専門分野における分析能力を養成していく科目群である。専門基礎科目として、英米研究に関する概論および国際関係研究概論を配置している。

□ 専門科目

各専攻分野に関する専門的知識や能力を習得させるための科目区分である。「東アジア」「国際学」「異文化」の3つの分野の科目群を配置している。1年次2学期から2年次修了までの間に履修する。所属する専攻の科目群から6単位以上修得する。

<東アジア科目群>

近代中国政治史・東アジア政治思想・近代日本政治外交史・東南アジア近現代史などの専門科目を配置している。

<国際学科目群>

アメリカと欧州の地域研究領域と国際協力・国際機構など国際関係領域の専門科目を配置している。

<異文化科目群>

イギリスとアメリカの文学研究ならびに英語教育に関する専門科目を配置している。

□ 特別研究科目

自ら研究課題を設定し研究活動を遂行できる創造力、自立力を養成するための科目区分である。研究課題の設定から、論文の構想検討、中間発表、論文提出に至るプロセスを重視する。1年次2学期から2年次修了までの間に特別研究1、特別研究2、特別研究3を履修する。6単位必修とする。

また、特別研究1、2、3の準備段階として、研究の課題設定、研究計画の作成、研究の進め方、研究分野に関

する学術論文等の講読指導など、論文作成の入門・基礎を学ぶ特別研究基礎を選択科目として配置している。”

- 学会発表など優れた業績を上げ、優秀な修士論文を完成させて、修了に必要な所定の単位30単位以上を修得した場合、1年以上の在学があれば修了することができるものとする。

## 入学者受入方針

社会システム研究科東アジア専攻では、以下のような人を求めています。

- 東アジアを中心とする地域や国際関係に関心があり、それらの専門分野について研究を希望する学生および留学生
- 英語および英米の文化に関心があり、英語の専修免許を取得することで教員を目指す人
- すでに身に付けている知識と分析能力を一層専門的に向上させ、研究者・大学等の教員を目指す人
- 一定のキャリアを有し、リカレント教育の一環として高度な専門知識を習得したいと考えている社会人